

## ホームページを使ったグループ型演習

市川 太一

### 一 演習の内容・予定・目的

広島修道大学では一九九八年度から毎年一回、自己点検評価委員会は授業を公開または依頼し、授業参観を実施している。<sup>(1)</sup> 筆者は二〇〇四年一月二二日の政治学演習AⅡを、授業参観の科目に提供した。授業参観実施科目はあらかじめ全学に公表され、参観希望者は総合企画課に連絡し、授業を参観する。

筆者の演習は、四七都道府県議会ホームページランキングの作成を通じて、ホームページの意義と限界を知り、グループワークを通じて協力する必要性を学んでもらうことを目的としていた。グループの発表の終了後、学生には記述式アンケートや教職員にはアドバイスカードに記入してもらった。<sup>(2)</sup> この研究ノートは、ランキングの作成とグループワーク、つまり授業の内容と授業方法を学生と教職員がどのように評価したのか、それについて今後どのように改善していくのかが、明らかにしていきたい。

(一) 演習の内容と予定

最初に筆者が作成した評価項目を、ランキングをつけている雑誌や新聞の記事を素材にしなが<sup>③</sup>ら、学生が実験的に評価してみた。この点検を基にして、評価項目を修正した。評価項目は表1の通りである。

表1 評価項目

I	県議会HPのトップページ
1	県のトップページの中で議会のHPはすぐわかるか
2	デザインはすぐれているか(字は読みやすいか、色などはみやすいか)
3	新着情報は充実しているか
II	議会・委員会の公開と参加
4	議会の質問項目は会議の前に見られるか
5	議会の会議録は見やすいか(議員別質問事項は検索しやすいかなど)
6	議会のインターネット中継は見やすいか
7	議会の広報誌の内容は充実しているのか
8	委員会についての情報の提供は十分に行われているか
III	会派の情報
9	会派の趣旨、会派の人数など明記されているか
IV	議員の情報
10	議員情報は十分にのっているのか(住所、電話番号、写真、HPのアドレスなど)
11	議員情報の検索はしやすいか(選挙区別、委員会別)
V	議会の仕組・選挙の情報
12	議会の説明はわかりやすく書かれているか
13	県議会議員選挙の情報は十分に載せられているか(選挙結果・有権者数など)
14	県議会の歴史はわかりやすく書かれているか
15	子ども向けのページは子どもに分かりやすく書かれているか
VI	情報の公開
16	議長の交際費は公開され、みやすいか
17	請願陳情の説明はわかりやすく書かれているか
18	政務調査費についての説明はわかりやすく書かれているか
19	資産報告書について分かりやすく説明されているか
20	情報公開の資料の請求がHPから簡単にできるか

点数も五点満点に改め、大変評価できる（5点）、少し評価できる（4点）、普通（3点）、ほとんど評価できない（2点）、ない（1点）とし、総計一〇〇点で四七都道府県議会のHPを評価した。

受講生二〇名を、五つのグループに分けた。学年別の内訳は三年生五名、二年生一二名、韓国啓明大学校からの留学生三名である。途中一名授業を放棄したので、最終的には受講生は一九名であった。

最初、各グループは五つのブロックを担当し、その後、関東や北陸中部の県を分担した。

- ① 北海道・東北地方、埼玉、長野、茨城
  - ② 近畿地方、三重、愛知、岐阜
  - ③ 中国地方、東京、千葉、新潟、栃木
  - ④ 四国地方、静岡、富山、石川、福井
  - ⑤ 九州・沖縄地方、神奈川、群馬、山梨
- 各回の講義は左記のような予定と内容で行った。

- ① 各自自己紹介を兼ねて、自分のよく見るHPを紹介してもらう。
- ② 評価項目の確定。
- ③～⑤ 五ブロックの評価をグループで実施する。
- ⑥ 今後発表に向けて、何をすればよいのか、意見交換。内容については（三）を参照。
- ⑦ 中間報告。
- ⑧⑨ 未着手の県の分析と発表に向けて分担について話し合った。

ホームページを使ったグループ型演習（市川）

⑩ 発表に先立ち、打ち合わせと予行演習の時間とした。授業参観のために時間を五限に変更した。

⑪ 発表会の開催。

⑫ 授業評価の実施。

なお、一回は就職ガイダンスのため、三年生は出席できなかった。

## （二）演習の経緯と養う力

### ① ホームページを演習で取り上げた経緯

a. 政治学概論の講義（二〇〇二年度）の際に新聞の記事を使ってレポートを書く課題を出したところ、一、二割はH Pの記事を使ったレポートがあった。九六年度から二〇〇一年度までの六年間、講義を担当していなかったもので、この間、新聞の記事と言ったとき、学生には新聞は必ずしも紙媒体を意味しないというように変わっていた。その後、講義では紙媒体の新聞とH Pの新聞記事がどう違うのか、実際に同じ記事を比較して見せたりした。

また、H Pを検索して出た意見をレポートにそのまま使う例も見られ、H Pの使い方や意義と限界を知ってもらう必要もあった。

### b. メディアリテラシーの講義から

過去二年、メディアリテラシーのワークブック（鈴木みどり編『メディア・リテラシー』リベルタ出版、二〇〇〇年）を使って作業型の演習を行ってきた。このメディアリテラシーの講義の際に、学生からもっとデザインの良いH Pがあるという意見があった。H Pを使った講義は考えられないだろうかというヒントがここにもあった。

c. 議会の傍聴から

議会の傍聴に学生と行った時、広島市議会では時間通りに始まらないことがあった。広島市議会では質問事項が配られるが、広島県議会では何を質問するのか、その時になってみないとわからない。卒業生の議員とこのような話をしていたとき、愛知県稲沢市議会ではあらかじめHPで質問項目を公開しているという話を聞いた。確かに議会によつてはHPに質問者や質問事項などが記載されていた。HPの利便さを再認識した。

② 養う力

a. グループ作業型演習の意義

ゼミでは、報告者と教員の対話になつてしまう。この弊害を直すために、四、五人からなるグループ学習方式を取り入れている。<sup>(4)</sup>グループ学習では、学生が発表をただ聞いているだけということから、学生がグループワークに参加して何かしなければならぬ状況に置かれる。グループワークを通じて、意見を交換してその相違を知り、まとめることのむづかしさや協力の必要性を認識してもらふことも演習の重要な目的である。

講義の最後に、グループごとに発表してもらつた。発表する際には、誰が何を発表するのか、協同して仕事をする方法も学ぶ。

個人としては、成果の発表を通じて、報告するためにレジюмеを作成し、口頭による発表方法を学んでもらふことも、この講義の目的の一つであった。

b. グループ型演習の欠陥をどう補うのかー受講記録

グループ内で各自意見を言つたり、グループ全体として意見をまとめたりするのだが、個人がどの程度グループワーク

に参加しているのか、グループを回ってみたり、時に議論に加わっているのだが、教員が完全に把握できるわけではない。受講生にそこで何を学んだのかをA4用紙二分の一枚に記録する受講記録を毎回書いてもらい、筆者がコメントを書き、次回に返すようにした。

### （三）ランキングの発表にむけて

六回目の講義の際に、今後、何をすればいいのか、意見を出してもらった。以下は、受講生から出た意見である。

#### ① 発表方法

パソコンでデータを作成、それをみながら意見発表をする。

みんなしつかりする。

原稿を作成する。

演劇風にしてみる。

通し練習をする。

#### ② 内容について

一回見直すか、他のグループにチェックしてもらう必要がある。

六〇点以上について評価をしない。

各都道府県の評価を見直す。

点数をつけた理由を説明する。

各県のHPをもっと具体的に見る。

新着情報を見て、各県の今話題になっていることを発表する。

評価の低い項目の多いところは、どの県もなぜ低いのかについて、話し合った結果を発表する。

IからVIの項目別の点数を出して評価する。

議会のHPは各県の人口や社会問題、人々の政治関心などによって変わってくると思うので、その事実背景を調べる。

(1) 二〇〇四年度までに計七回の授業公開を行ったことになる。授業参観は、授業方法の改善に役立て、併せて公開の成果を参観者と共有することを目的としている。授業参観実施後、報告会が開催されていたこともある。累計すると、公開科目数は三七科目、延べ参観者数は二〇九名になる。総合企画課が事務を担当している。

(2) アドバイスカードは職員が受けた「LDP (Leadership Development Program)」（リクルートの教育システム）を参考にして作成された。

(3) ランキングのイメージをつかんでもらうために「全国知事四七人の実力」（『文芸春秋』二〇〇四年四月号）、「女性管理職 登用進まず」（『日本経済新聞』二〇〇四年九月二八日）などを素材として配布した。

(4) グループ学習は斉藤孝『読書力』（岩波新書、二〇〇二年）の読書会の方法にヒントを得ている。この点については同書一七二頁以下を参照。

## 二 受講生による評価

講義の最終日に、「演習を受講して、この演習が評価できる点と改善すべき点について書いて下さい。グループワーク

ホームページを使ったグループ演習（市川）

七七（七七）

から得たもの、グループワークの改善すべき点、発表する力やまとめる力などがついたかどうか、何を学ぶことができたのか、などについても書いてください」というアンケートを記名式で実施した。

記名式アンケートに入る前に、受講生がグループワークについて、どのように評価したのか、無記名式の授業アンケートの数値(5点評価)から見てみよう。

「グループワーク他の人の意見を知るのに役立ちましたか」は4・8(平均)。

「評価の一致や相違を学ぶことができましたか」は同じく4・8(平均)。  
したがって、この数値から、グループワークは受講生から評価されていると言ってよい。

### (一) 肯定的な評価

記述式評価から、受講生はグループワークを主体とした演習から何を学んだのだろうか。

①当初、受講生はグループワークの経験がなく、戸惑いがあったようである。しかし次第におもしろく感じるようになっていった。

「初めてこの授業を聞いたときは難しいという感じがしました。でも、グループで調査しながらよく分からない部分を友達から教えてもらったりして、面白いという感じになりました。グループで意見を交換するのが本当に勉強になりました。」(N)

②あまり話をしたことのない学生や上級生と話をしてよかったという意見もあった。個人によって考え方が違うが、そ



れを通じて物事を多角的に捉えることができるようになっていき、評価は同じでも理由が違っていることを発見できたと評価している。

「普段あまり話すことのない人や学年を超えたコミュニケーションを取れる点は評価できる。」(M)

「グループワークを通じて、同じホームページから受ける印象、考え方の違い、ホームページの捉え方などが人それぞれで違うということをあらためて感じることができた。また、意見交換などにより、同じホームページでも、見る視点によって、さまざまな特徴があるということもわかった。グループワークを通じて、以前よりも多角的な視点から物事を捉え、考えることができるようになったと思う。」(A)

「グループワークをすることにより、一人一人の意見を聞くことが重要だということに気づきました。自分ひとりだけでは評価に偏りが出てしまうが、他の人の意見を聞くことによって、自分ひとりでは気づかなかったことに気づいたり、逆に他の人に指摘をしたりと、お互いプラスになることばかりでした。」(F)

「今回のこの演習でもっともよかったと思うことは、グループで調査をし、発表を行うまでの過程です。最初グループで都道府県議会のランキングを作ることいろいろな不安がありました。グループで意見をまとめていく中で、自分と同じ意見でもその理由が違っていたり、自分とは評価の視点が違っていたりしました。でもこの部分こそがグループ学習の大変な部分でもあり、面白い部分なのだなと今回の授業をとおして感じました。」(H)

③個人の役割を果たさなければ全体の迷惑になり、協力の重要性も認識できた者もいた。

「グループワークからは、個人の責任を全うしないとグループ全体に迷惑がかかり、さらに演習全体にも迷惑のかかる

ことなのだと思われました。ですから、何があっても、仕事はやり抜かなくてはならないということも学びました。」(C)  
「グループで共同作業することによりクラスがまとまっていたと思う。改めてみんな協力して作っていく大事さに気づかされた部分があった。」(T)

④あらかじめリーダーを決めるように言ったわけではないが、次第にリーダー役が決まっていた。リーダーの役割を演じた受講生は何をしなければいけないのか、学び反省している。

「この演習を通しての自分自身の反省点としては、グループ活動に消極的で個人で何もかも済ませてしまうことが多かったので、次のゼミでは今回のゼミでの反省点を克服したい。」(K)

「グループワークについては、今回私はグループのリーダーをして思ったのが、リーダーはメンバーの自発性を促す役割をしなければならないということだった。そのためにも、グループ内の交流を深めるよう、リーダーが積極的にメンバーと交流を図る必要があると思った。」(E)

⑤資料を作り、みんなの前で発表する力がついた点に評価があった。発表する力の差にもかわからず、それぞれのレベルに応じてプレゼンテーションの力がついたと評価している。

「自分の意見をみんなの前で言うので考えをしっかりと持つ力がついた。」(D)

「全体を通してパソコンを使ったということで、今までのゼミにはなかった新しいスタイルのプレゼンテーション能力を得たように思います。」(S)

「今回学んだことは、資料を作りその根拠づけを自分たちなりに行いその上でみんなの前で発表を行うことができることができました。今回の自分のグループでまとめたランキング資料はまだまだ稚拙ではありましたが、資料をまとめ、発表を終えたときの達成感を味わえたのはよかったと思います。」(H)

⑥ インターネットを使った講義は受講生の関心をひいたようだ。

「県議会のHPの比較研究ということで、インターネットを使った授業は新しい試みで大変面白かった。別の事柄でも比較していく授業ができればいいと思う。」(T)

⑦ 今回の授業は、全学の授業参観の一環として実施し、学外から新聞記者や経済団体の職員に来てもらって、発表会を実施した。学生たちはこの点をどう見たのだろうか。

「この演習の評価できる点としては、研究成果の発表を公開したことだと思います。公开发表を行ったことにより、自身のプレゼンテーション能力を磨くことができましたし、また反省点も知ることができたので、公开发表はこの演習の評価できる点であると思います。」(K)

「発表の際に、各先生方や新聞社のひとを招いてやったことは緊張しましたが、学生の発表する力が養われたとともに、いいアドバイスをいただき、とてもよかったと思います。」(O)

「発表のときにはかの先生など呼び発表会を開くことは、いい発表をしようというやる気につながると思うのでとてもいいことだと思います。」(Y)

⑧今回は演習の素材として県議会のHPを使った。素材は適切であったのか。

「私はこの演習を受講して今まで見たことのなかった色々な県の県議会のHPを比較してとても勉強になった。県によっては充実してあるところもあったしあまり充実してないところもたくさんあった。」(G)

「この演習を履修するまで、県議会についてのホームページを見ることはありませんでした。この演習で調べたことよって、県議会についての知識を得ることができ、各県それぞれのホームページの特徴についても知ることができました。履修して、県議会の知識の他にも多くのことを得ることができたと思います。」(F)

「この演習のテーマは、日本でおそらく初めてという画期的な試みで、私たちの評価次第で、行政にも影響を与えるかもしれないというやりがいの持てるものだった。」(E)

## (二) 改善すべき点

①もちろん、すべての面でうまくいったわけではない。プラスの評価しつつも、グループ間の評価基準の調整、評価作業の単純さにあきってしまう、発表する人が偏ってしまう、グループ編成などが改善されるべき点として指摘されている。

「改善すべき点はグループごとにまとまって作業をする時間が多くて、グループとグループで話し合いなどを行うことが少なかったことだと思います。」(Y)

「評価していく中で、他グループの途中経過を見たときに、自分たちのグループとの平均点の差などに評価の違いを感じました。HP上にこの項目があれば点数を上げたり、そのHPの独自性にポイントをあげたり、ランキングを作る中で

ある程度統一された評価基準というものが必要なのではないかと思いました。」(H)

「今回のランキングは班それぞれの考えや意見が全面に反映されていて、はたして公平に判断できたかということで、やはり疑問の残るところです。」(C)

「同じことの繰り返しなので、授業自体がつまらなくなってくる。もう少し、バリエーションのとんだ授業をしてほしい。」(U)

「私達のグループはもう少し話し合いがうまくスムーズにいったらもっとよくなっていたと思う。発表する人はどうしてもかたよりがちになってしまっていたので私はこれからもっと意見を言う力をも身につけたい。」(G)

「リーダーを明確にすることがひとつあります。一人リーダーを作り、話を進めていくととてもスムーズにグループワークができると思います。」(F)

「グループワークの中で協力がちゃんとできていた班とできていない班があり、それにより発表の仕方にも差があったと思う。」(T)

②もっと時間が欲しかったという意見もあり、これは意欲的な意見である。

「発表までの評価作業の時間が少なかった。」(A)

「あとは、せっかくランキングもつけたりしたのでもっと分析をしたりしてみたかったです。」(G)

③パソコンの配置や画面について、改善を希望する意見もあった。

ホームページを使ったグループ型演習(市川)

「発表の際にはもっと大きい画面の方が集中できると思います。」（N）  
「もうひとつ改善点を出すならば、それは机とパソコンの位置です。これは仕方ないかもしれませんが、前後に二人ずつだと、パソコンを四人が見合うというのがとても難しかったです。」（F）

### 三 教職員による評価

担当部局から要請のあった「参観にあたって」という文書を作成し、参観者に配布した。

文書には、科目名、実施日、カリキュラム上の位置づけ（学部か学科、共通教育かなど）、受講者数、教室の規模や種類、テーマ、主眼点などを書くようになっていた。

主眼点としては、作業型演習、グループワーク、ホームページの三点をあげた。

当日、学生が作成したHPランキングとその説明文を配布した。

授業参観した教職員は七名（法学部四名、商学部一名、経済科学部一名、職員一名）、学外から二名、総計九名であった。学外者からは発表についての講評をもらった。

教職員からは授業参観アドバイスカード（どこがよかったですか、もっとこうしたらよくなる）を書いてもらった。以下は、アドバイスカードの内容である。

#### （一）評価できる点

#### ① 共同作業型・実習型演習

「共同作業型の演習は普段していないので、学期を通じて一連の作業をさせ、最終的に発表会にするという点は学生にとっても作業の進展、やりがいを感じるのではないか。」(あ)

「実習型演習としてアイデアも素材もよいと感心しました。」(い)

② 学生の取り組み、プレゼンテーション

「学生が一言話せば教員が十、答えるという演習をやっているので、学生のプレゼンテーション中心の授業を見て新鮮だった。また学生がかなり準備をしているのを見て、トレーニングをすればできるようになるのだと感じた。」(か)

「各学生の報告もしっかりしており、私自身の指導の方法にも反省させられました。」(う)

「学生の積極的取り組みの姿勢が見られる点がよかったです。」(お)

「伝統的な講義・ゼミとは違う方法で授業を進められ、素晴らしかったです。」(お)

③ HP・インターネットの利用について

「今回の授業は国際政治のゼミ(演習)をPC教室でという通常の、既存の概念を破ったスタイルが現代の学生ニーズにマッチしていて参考になりました。」(き)

「演習・ゼミクラスでの発表、レポートにインターネットからの情報を多用するケースが目立っています。特に低学年ほどその傾向が目立ちます。そうした傾向を否定するのではなく的確な利用法を学生に追及させるという本講義の着想に共鳴します。具体的なケース研究として都道府県議会HPを取り上げたのは適切だったと思います。四七のサンプルからさまざまな比較・特徴点の抽出が可能となり、五点法によってランキングを図ったために作業を担当した各学生は達成感とともにHPからの情報選択に自信を持てるようになったと思えました。」(え)

「概念として重視される情報公開についてHPを検証することによって学生が主体的に学ぶことができる。画期的な演習であり、素晴らしいと思います。」（い）

④ 教材の準備

「ランキングの設定についても体系的に練られていることが伺えます。」（い）

「比較する際の尺度の取り方など方法論を考える機会でもある。」（あ）

⑤ ゲストのコメント

「発表会に当たったってのゲストからのコメントはためになったと思う。」（あ）

⑥ 機器設備

「グループでの作業になると2303教室のようなマルチメディア教室（六人で一テーブル）、今日の発表では2103教室スクリーンを見ながらプレゼンテーションという形も適しているのではないかなと思いました。」（き）

⑦ FDの観点から

「学科内で案内されているので、より有意義なFDとなっています。学科、グループ単位での公開授業にシフトしていてもよいのかなと感じています。ツールなどの点から学科グループを越えて参観、相互に活用できるようそれぞれ情報公開は行っていく必要があります。保護者への公開や高校生、高校教員への大学訪問時公開の形も考えていく必要があるのでは。」（き）

⑧ その他

「授業参観は初めてでしたので、興味深かったです。自分自身の立場やスタンスから見ると、例えば請願のあり方の県



別の差異などに目が行くのですが、『情報開示のあり方』という切り口で考えるというのがユニークに思いました。」(う)

(二) 工夫したらよいと思われる点

① 受講態度

「人の報告を聞かずに自分の作業をしている学生が何人かいた(YAHOOのページを見たり、ゲームをしたり)。」(あ)

② 発表方法

「聞いている方からすると全てを発表するのではなく、代表的なもの、典型的なもののみを発表する方がわかりやすいかなと思いました。」(か)

「異なるグループ間の質疑、議論は必要ないのだろうか(報告が先に終わっていた学生が遊んでいた)。」(あ)

「報告会という性格もあって難しい点もありますが、発表者とそうでない人との間の質問などのやりとりがあったらもつとよかったと思う。」(か)

③ 発展した授業への提案

「さらに言えば、『見る』という行為からもう一歩進んで実際に議会に対して改善点をメールで送ってみてはどうだろうか。『書く』という行為により、さらに能動的な政治参加を実践することができると思えます。あるいはランキングをHPにしてみてもどうでしょうか。」(い)

「今回の報告では十分な印象ですが、『情報公開』という視点で、『県民は何を知りたいのか、県民が発言できる機会があるのか』などという点から発表してもよいのでは。また、それぞれの項目ごとに意見(他県との比較)を出し合うのも

よいのでは？」（う）

「この講義の次の発展段階として例えば議会議事録の公開程度（内容の詳しさや資料など）を重要イッシュー（環境、公共事業、地方財政など）別に比較してランク付けをする、といった作業ができれば、学生のメディアリテラシー能力はさらに向上するのではないかと思いました。そうなればインターネット情報を適正な資料としてレポートや論文に活用できる能力がさらにつき、本講義のねらいが一層生かされることになると考えます。」（え）

「県議会のHPで必要なコンテンツは何で、なぜ必要か、という作業はなされたのだろうか。比較の上で例えば〔広島〕のモデルHPを作って見てはどうか。政治への興味につながるのでは。」（あ）

#### 四 今後に向けて

今回初めてのための試みのため、教職員、受講生のアンケートで指摘されたような問題点があった。それに対して、次のように改善していきたい。

##### （一）企画力の育成

もう少し学生に企画させればよかった。途中、発表に向けて何をしなければならぬか、話をする機会をもったとき、すでに一（四）でみたように有益な意見が出た。学生が自ら企画し、発表する方法へともっていく必要がある。

## (二) 最終的なランキングの作成

今回初めてということもあり、時間が不足したために、完全なランキングを作るという目標は達成できなかった。公表までには、グループ間による評価の相違の調整、議会事務局や議員への取材、特徴ある項目を中心としてまとめるといったことなどを行うとよいだろう。

## (三) 発表方法

グループ発表の仕方にもいろいろあることを助言した。中間発表では代表が一人で発表したもので、二名以上の学生が発表するように助言した。各グループの学生たちが工夫し、全員が発表する方法を取った。

参観者からは発表方法について意見があったけれども、メンバーの協力という点からは評価できるのではないか。

## (四) グループ分け

メンバー構成によって、グループワークが充実したグループとそうでないグループがあった。これも学生には勉強の一つであるが、しかしまとめた学生は苦勞した。グループ分けは受講者の状況をよく把握して行うべきである。

## (五) 個々の学生の評価

個人のグループへの貢献をどのように評価するのか。メディアアリテラシーの演習の際に、個人の評価がむつかしい面があり、今回は受講記録という制度を導入した。個人が毎回、講義によって何を学んだのか、書くことで改善しようとした。

かなり改善できたと思うが、それでもなお十分でない。毎回、グループワークへの貢献度（参加度）を測るために、五段階の自己評価をってもらうというのも一つの方法である。

（六）他人の発表を聞くように

発表の際に他人の発表を聞かない学生がいたとアドバイスカードに書かれていて、正直言って失望もした。通常は教卓で学生が何をしているのか、確認できたし、グループ学習の状況を見て回っていたので他のHPを見ていることは少なかつた。現在の学生の実態を改めて再認識させられた。他のグループの発表を聞き、個々の学生が何を学んだのか、考えて欲しかった。学生にも他のグループの報告を聞いて、評価をってもらうという方法もあったかもしれない。

（七）同僚による授業参観の意義

今回、授業公開というのは筆者には初めての経験であった。実施するに際してどの科目がいいのか、考えて、特徴のあるHPを利用した演習を公開した。大教室の講義ではなく、少人数の演習の方が公開しやすいと思われる。

実際に公開してみて、すでに本文に書いてきたように、講義担当者と学生にとって得たものは多かった。

職員のアドバイスには教室についてのコメントがあり、すべての教室に詳しくない教員からすれば貴重なコメントになっている。授業に際しては職員の助言も重要であることを再認識した。

教員からは、それぞれ自分が担当している演習などと比較した意見が書かれており、今後の演習の研究テーマや研究方法の助言は参考になった。

インターネットは貴重な情報源であり、印刷媒体にはない特性をもっている。情報の正確性に欠けるといふ大きな問題点もあるけれども、その限界を知らながら利用するのは意義がある。官公庁の審議会の答申や審議会で配布された資料なども見ることが出来る。速報性も魅力である。ちょうど、この原稿を書いている二〇〇五年五月五日にイギリスの総選挙が実施された。衛星放送のBBCのニュースでも選挙結果や党首の喜びの表情などを知ることが出来るけれども、細かい点までは知ることができない。インターネットであれば、各政党のマニフェストやBBCなどのHPを通じて個々の選挙区の選挙結果までもより詳しく見ることが出来る。HPの意義と問題点を教えていくのも大学教育の重要な課題となっている。

FDという観点では、自発的に同僚が参観するという点が評価できるのではないか。とくに筆者の属する学科の半数以上の教員が参加してくれた。同じ学科ということでアドバイスカードに書かれた意見も傾聴に値する内容であった。終わつた後に意見交換をする場があれば、FD研修としてもっと有意義になつたと思われる。学科内で授業評価を実施し、その内容を共有しつつあるので、授業方法についても相互に参考になることもある。この点でも意義があつたと思われる。HPを使った授業をひきつづき、行っていきたい。